



特別な配慮・支援が必要な子への対応の手がかり

十一月に入り、朝夕のみならず、日中も過ごしやすい季節になった。各学校においては、運動会等の行事もこの時期に行われる所も多いのではないだろうか。

今回は通常学級に在籍している特別な配慮・支援が必要な子供たちについて考えてみたい。教員をしていれば、そのような子供たちを必ず受け持つ。私の記憶に残っているAについて紹介する。私が教職3年目の時、Aの担任となった。Aは、音楽が好きで、特にクラシック音楽には詳しい子であった。いつも鍵盤ハーモニカを身近に持ち、休み時間には作曲をしたりして一人で楽しんでいる子だった。他の教科については、特に興味を示さず（私がそのように感じていただけでも）、教科書を広げることもなく、ノートをとる事もなく、授業を受けていた。しかし成績はかなり良かった。ノートをとらずとも、話を聞いたり、友達と交流することで、自分なりの方法で理解をしていたのだろう。またAは、光に敏感で常に「カーテンを閉じるように」と私によく言ってきた。特別支援教育に関して私自身が勉強不足で、「カーテンを閉め切ると教室の明かりだけでは少し暗いのでカーテンは開けて」などと、何の配慮もなく指導していた。そんなAは、私に「何故ノートを書かないといけないの」とか「どうしてカーテンを閉めてくれないの」などとよく質問してきたが、Aの単なるわがままとして片付けていた。あの時、支援や配慮が何故できなかったのかと、今も反省している。

ここでは、小中学校等で初めて特別支援学級担任や特別支援教育について学ぶ機会がなかなか得られなかった先生方向けのリーフレットで、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(NISE)の「特別支援教育リーフレットVol.5」のようによく考えよう、合理的配慮の内容を簡単に紹介する。最初に「はじめの一步は、子供たちの困りごと」に思いを巡らすこととある。この一言に、Aの困りごとを思いを巡らすことはできなかった私自身の視野の狭さを痛感した。次に「合理的配慮提供のプロセス」が記載されている。例示では困っている子供に対し、「どのような配慮や支援を行うこと」で、その状態を解消・軽減できるかを考え、実際に配慮や支援を行い(略)、子供自身の努力だけでは解決できない課題に対して、その状態を解消・軽減し(略)、他の子供と同様に無理なく参加するために配慮や支援することを『合理的配慮』の提供と言う(リーフレットVol.5より引用)とあり、教師が丁寧に寄り添うための心構えや課題改善に向けた取り組みのプロセスが分かりやすく記載されている。また、リーフレットの中には、「困りごとを伝えられる関係づくり」についても述べられていて、教師と子供との人間関係を形成できる雰囲気づくりが重要なことを改めて感じる。更に、合理的配慮に関し、情報共有の大切さも述べられており、風通しの良い学級・学年づくりや学校づくりといった組織体としての取組が重要であること、何より共有した対応は、学校の誰もができることが必要である。このリーフレットは、特別な配慮・支援を要する子供について述べているが、どの子に対しても当てはまる内容だと思ふ。また、合理的配慮の留意点として「(略)子供や保護者と一緒に配慮や支援の方法を検討・決定していくことが大切(略)合理的配慮は、一度決めたら、その配慮や支援をずっと続けるのではなく、必要に応じて柔軟に見直すことが大切(略)子供たちの中には、授業の中で、自分一人だけ特別な配慮や支援を受けることを極端に嫌がる子供もいる。その場合、子供の気持ちに寄り添い、その子供だけ特別扱いしていない、されていない」と思えるような配慮や支援についても考えることが大切とある。子供のために十分検討を重ねて取り組んだとしても、それを受けた子供がどのような気持ちだったのかについても充分留意しなければならない。つまり、細かなPDCAサイクルを取り入れた対応が大事である。

今回述べてきたことは、特別支援教育を勉強してきた先生方には基礎的な内容かも知れない。学校には、教職3年目だった頃の私のように、特別支援教育を学ぶ機会を欲している先生方もおられると思う。今回紹介したリーフレットを活用しながら、校内研等で学びを深めてみてはいかがだろうか。

令和5年度 第121期教育研究員入所式、テーマ検討会



7(火)	中間検討会 I
28(火)	指導案検討会

令和5年度 11月 事業予定

9(木)	初任研 道徳グループ 代表授業	代表者学校
14(火)	ICT 情報教育推進部会⑥	研究所
21(火)	初任研指導教員等連絡協議会	研究所

令和5年度 中堅研 特別活動研究授業



鏡原中 松堂 恭文 教諭
学活「一人一人が学級に貢献しよう」



古蔵小 金城 千秋 教諭
学活「学習をレベルアップしよう！」

情報教育講座「学校ポータル」の作成 受講者募集

日時:令和5年11月20日(月)15:15~16:45

会場:那覇市立教育研究所 会議室

対象者:市立小中学校教諭 定員20名(教務、管理職等)

※Google アプリをある程度活用した経験のある方

申込み方法:右上 QR コードより

